

森永乳業の育児ニュース『エンゼル 110 番レポート 89 号』

「2021 年年間統計」

森永乳業は、時代とともに変化する育児の理解に役立つことを願い、1993年4月から「エンゼル 110 番レポート」を発行しております。この「エンゼル 110 番レポート」は、育児相談窓口「エンゼル 110 番」への相談内容から、育児に関する傾向についてまとめています。

エンゼル 110 番は 1975 年 5 月に開設し、2022 年 5 月で 47 年を迎えます。この 2 年間は、新型コロナウイルス感染症への予防対策として相談体制を縮小する一方で、長年行っている看護学生の実習をオンラインに切り替えるなど対策を実施しました。それでも、相談の電話が鳴らない日はなく、これまでの相談件数は約 99 万件(2021 年 12 月現在)にのぼり、2022 年半ばには 100 万件を超えることが見込まれています。

今回は、2021 年の年間統計をもとに、育児に関する傾向をレポートします。

【主な統計結果】

- 2021 年相談件数は 9,087 件、1 ヶ月平均は 757.3 件。1 通話の平均時間は 17 分 4 秒、年間としては昨年に引き続き再相談が新規相談を上回った。
- 認知経路は、一昨年半数を超えた「インターネット検索」が 64.5%とさらに増加。
- 相談対象の年齢は 1 歳以上が全体の 55.4%と半数を超えた。
- 相談内容は「食生活」が最も多く 29.2%、次いで「相談者自身」が 23.0%と初めて 2 割を超えた。

◇エンゼル 110 番 電話相談運営概要◇

相談対象 妊娠中～小学校就学前まで
相談員数 17名(看護師、管理栄養士、心理相談員など)
ウェブサイト <http://www.angel110.jp/>

本件・バックナンバーに関するお問い合わせ先

<報道関係者からのお問い合わせ先>

森永乳業 広報・IR 部 佐藤 TEL 03-3798-0126 メールアドレス pr@morinagamilk.co.jp

<お客さまからのお問い合わせ先>

育児に関する無料電話相談「エンゼル 110 番」フリーダイヤル 0800-5555-110

※受付時間:月～土曜日(日曜、祝日除く)、10～14 時

エンゼル 110 番ウェブサイト <http://www.angel110.jp/>

エンゼル 110 番レポート VOL.89

今回のテーマ「2021年 年間統計」

2021年相談件数は減少傾向。1件当たりの相談時間は昨年と変わらず。再相談が新規相談を上回った

2021年エンゼル110番で受けた相談件数は9,087件です。1ヵ月平均では757.3件、1日当たりでは31.4件でした。

2021年も引き続き新型コロナウイルス感染症の感染状況は変わらず、東京都や大阪府近郊の都市圏や沖縄県などでは、緊急事態宣言もしくはまん延防止等重点措置が長期間適用されていました。エンゼル110番でも感染予防対策として5月から10月までの6ヵ月間、電話回線数を減らして対応したことも影響し、相談件数は前年よりさらに1,288件/年(前年比87.6%)、減少しました。(図2)

1件当たりの平均相談時間は17分4秒と昨年の17分5秒とほぼ変わらない長さとなりました。2020年に初めて再相談件数が新規相談件数を上回りましたが、2021年もその傾向は続き、再相談件数4,862件(53.5%)、新規相談件数4,225件(46.5%)となりました。(図3)

図1 月別相談件数(2021年)

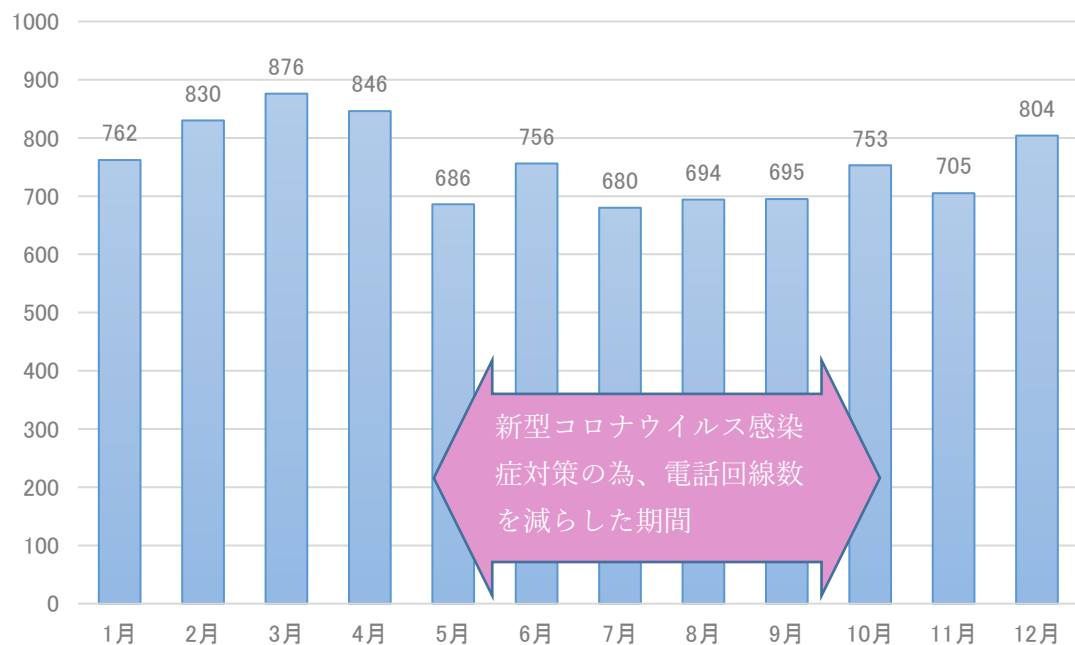


図2 相談件数と出生数(2013～2021年)

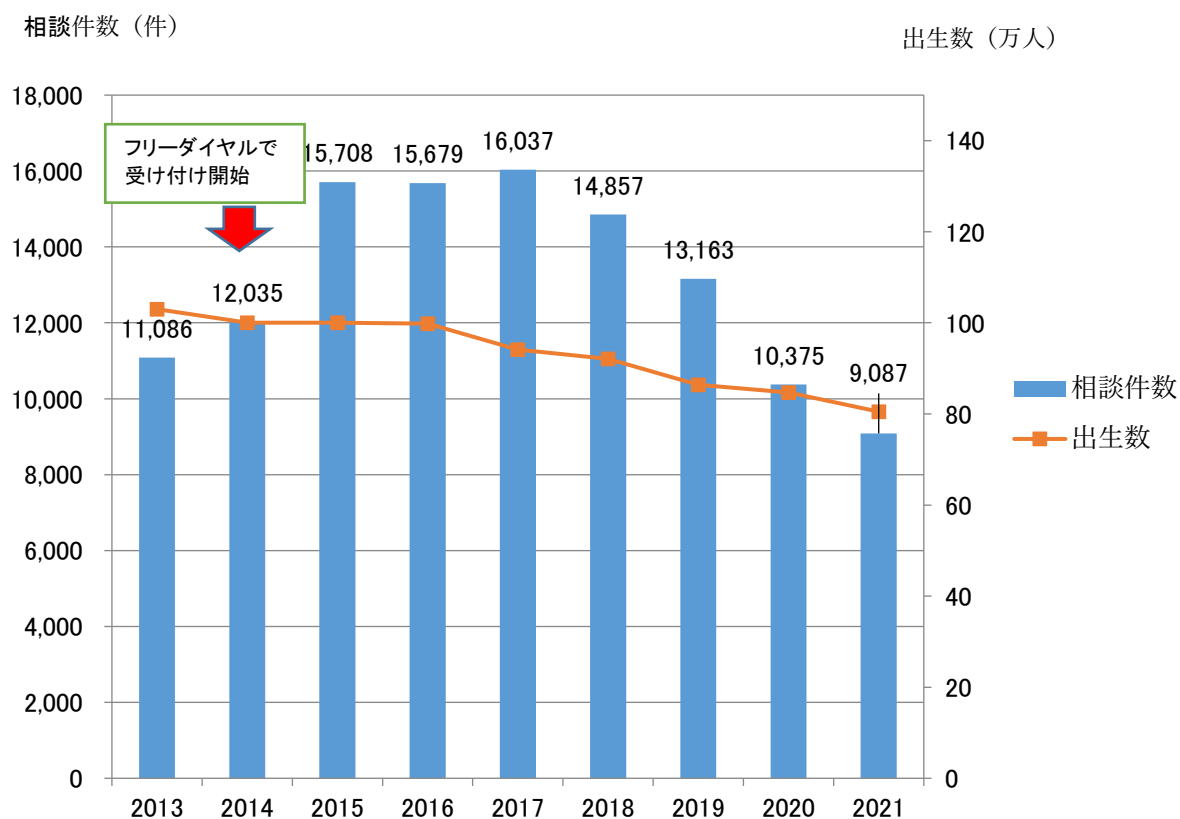
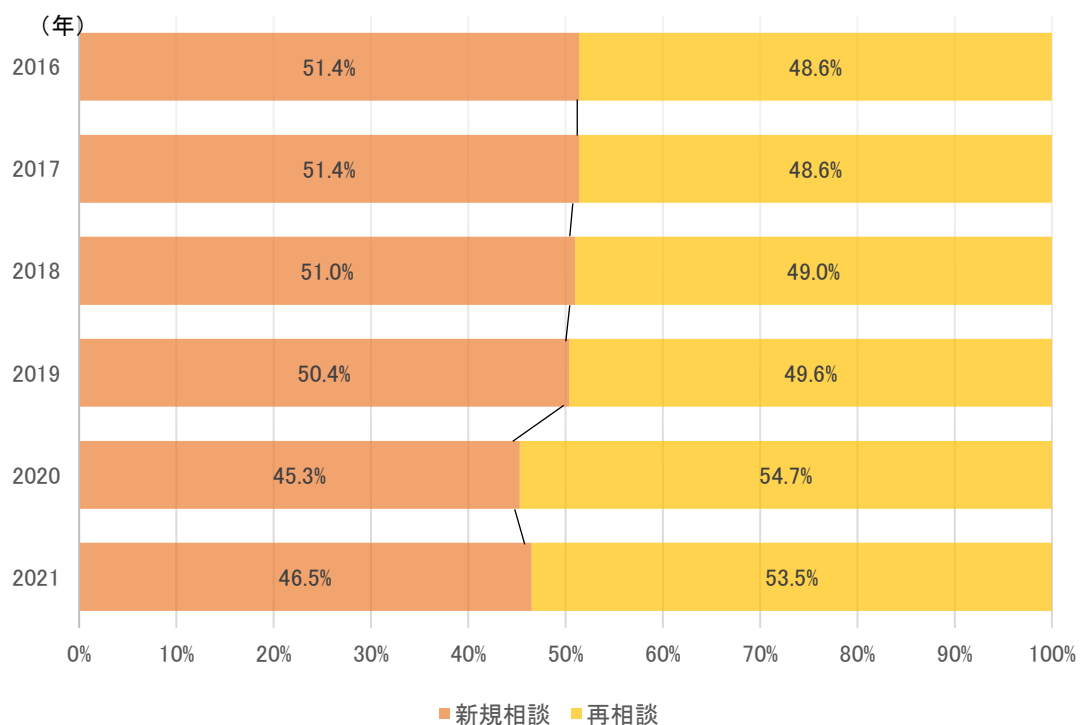


図3 新規相談と再相談の割合(2016～2021年)



インターネットで『無料育児相談』と検索が6割を超える

エンゼル 110 番の認知経路としては、「検索サイトなど」が最も多く 64.5%を占めました(図 4)。インターネットでの検索が年々増加し続けています。2021 年はインターネット検索の中でもインスタグラムやツイッターなどといった SNS でエンゼル 110 番を知り、実際に利用される方が増えています。また、森永乳業の育児用ミルクの通販サイトのご利用者を対象にエンゼル 110 番の相談事例のメール配信を 11 月より開始したところ、12 月には月間のウェブサイトビュー数が開設以来初めて 10 万ビューを超えました。(図 5)

図 4 認知経路 (2017~2021 年)

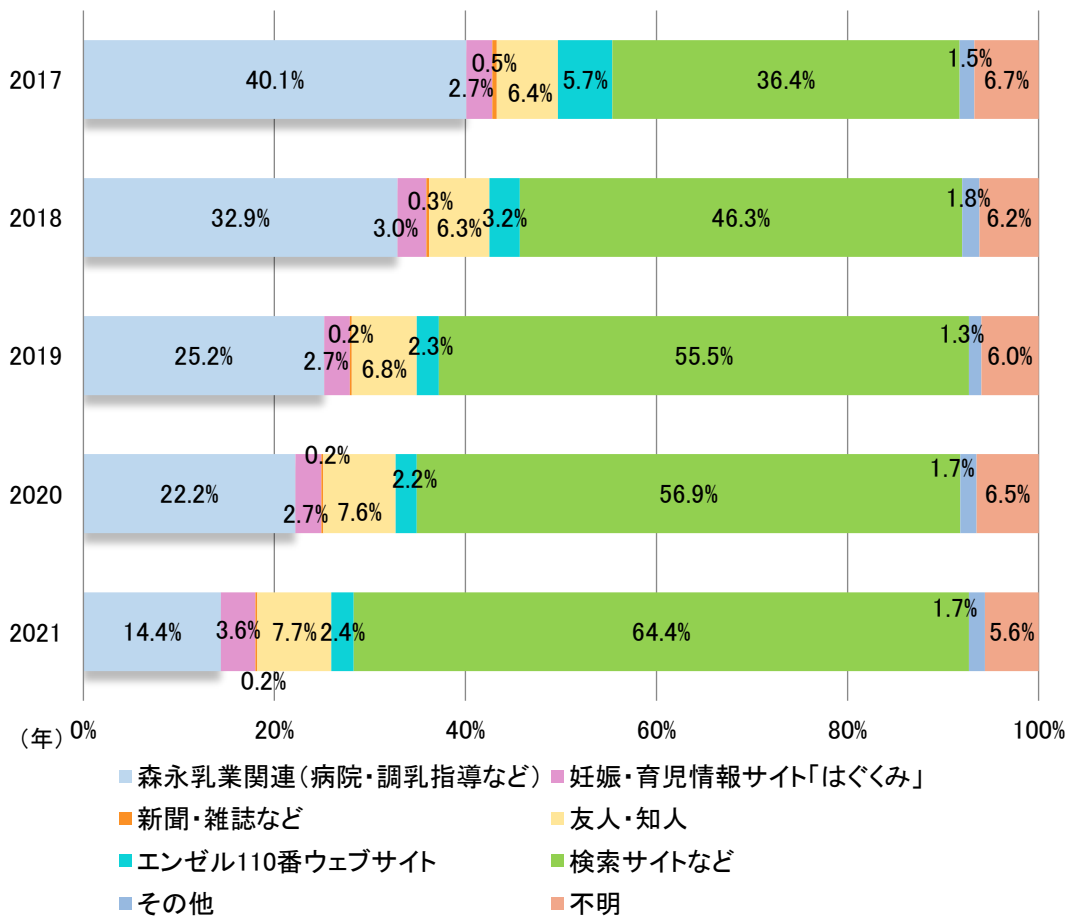
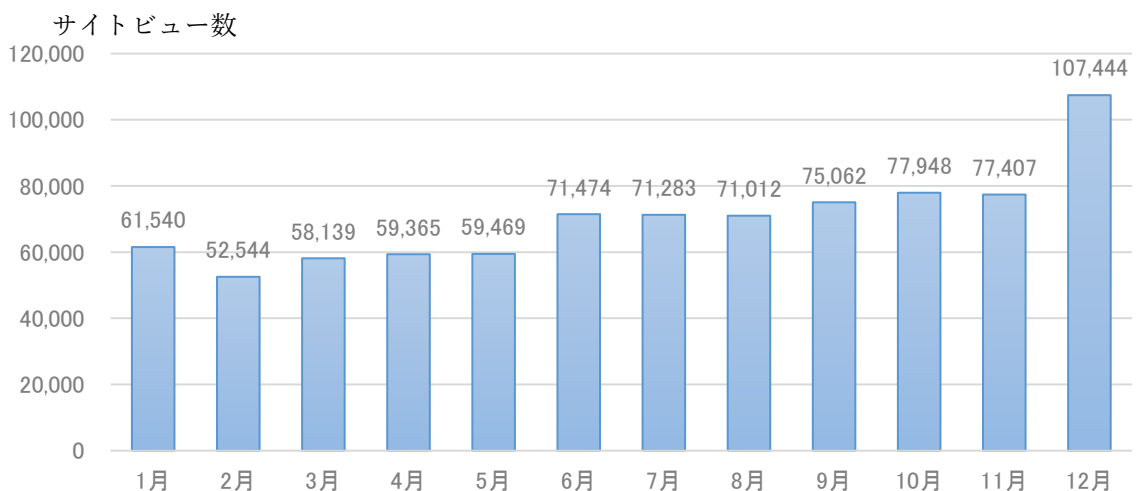


図 5 エンゼル 110 番ウェブサイトビュー数 (2021 年)



ママからの相談が 95.9%を占めるも、パパからの相談もじわじわ増加

相談者は 95.9%がママで、そのうち 30 歳代が 61.7%と 6 割を超えています。(図 6、7)
 またパパからの相談も増え、パパの相談件数の記録を取り始めた 2004 年から全体を占める割合は約 4.2 倍に、人数は 100 人から 231 人に伸長しました(図 8)。コロナ禍で里帰り出産が難しいこともあるのか、パパが育児休暇を取得したというお声も相談の中でたびたびお聞きしました。

図 6 相談者の属性(2021 年)

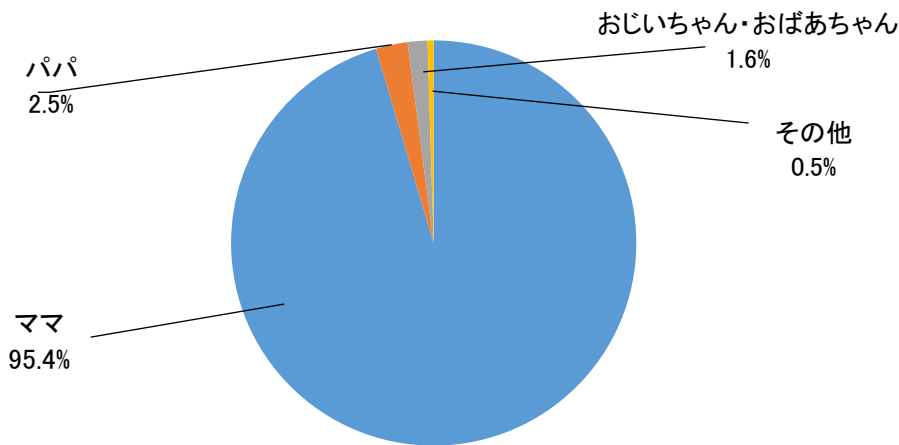


図 7 ママの年齢推移(2017~2021 年)

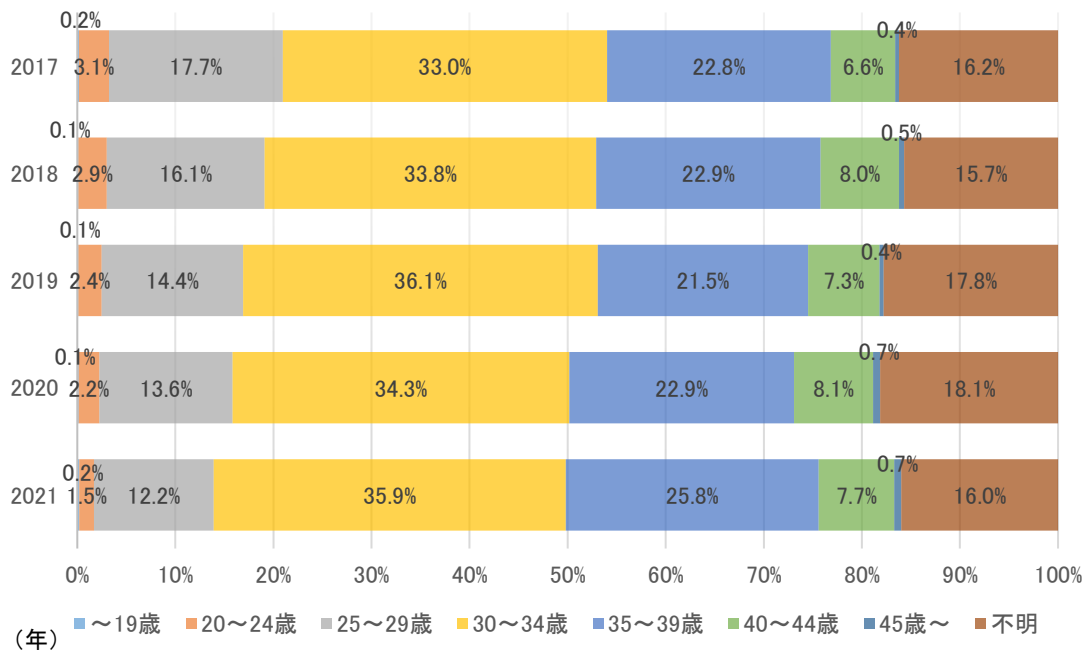
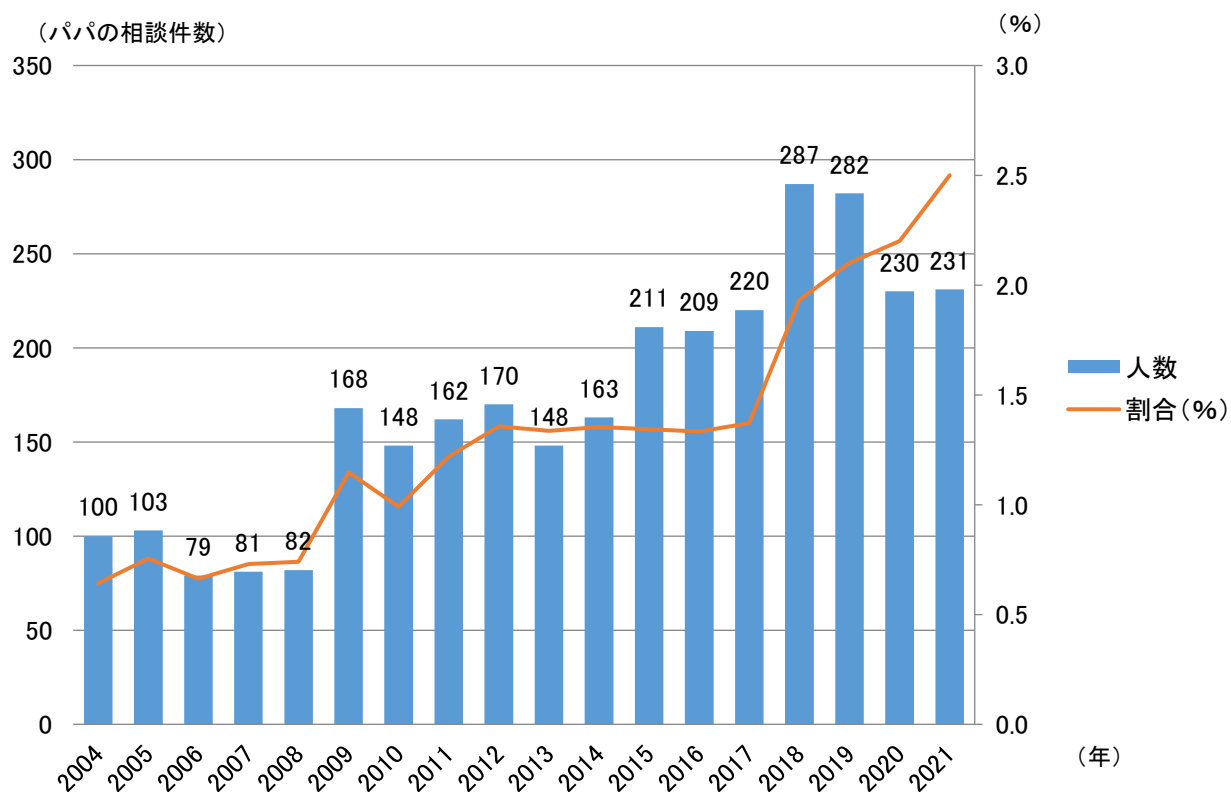


図 8 パパの相談件数と割合 (2004～2021 年)



■ パパからのご相談例

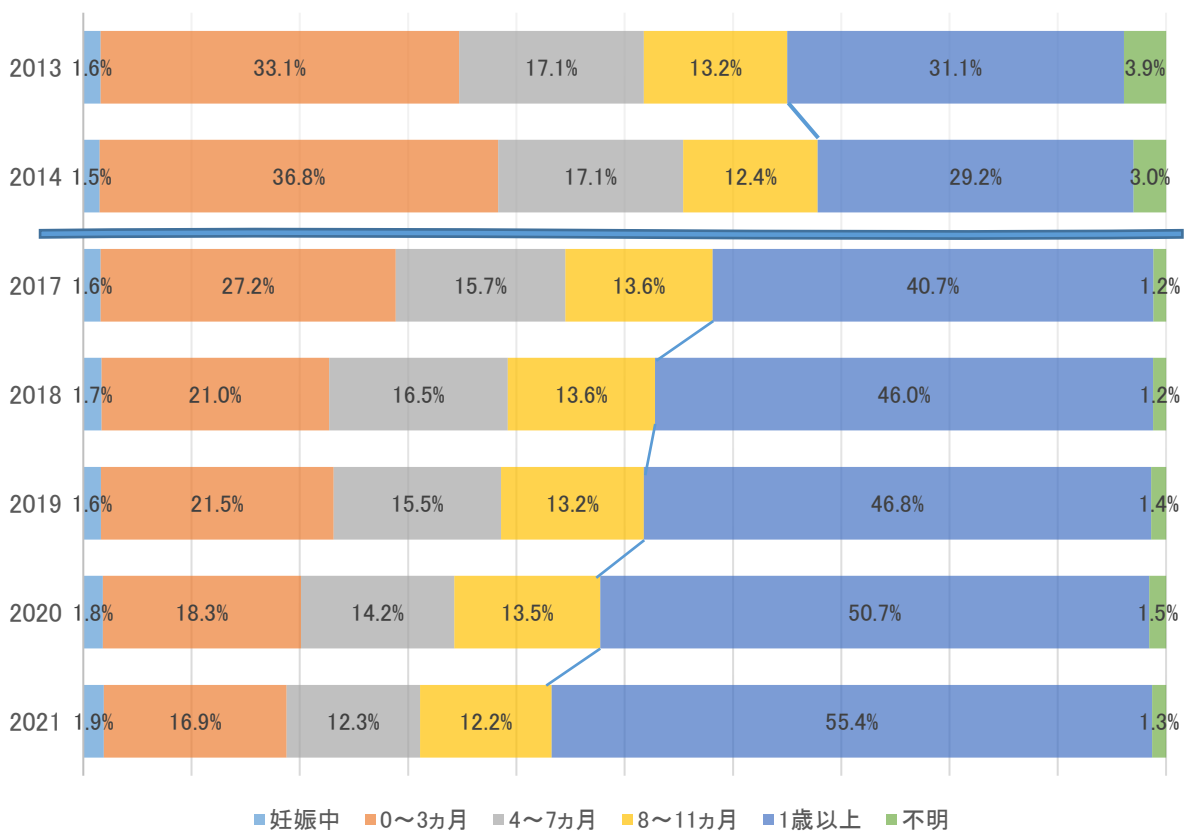
最近の特徴的なものとして、「ママのサポートをどうしたらよいか?」「ママが産後うつではないか」といったご相談があげられます。また、育児について夫婦間の意見の相違を夫婦一緒に尋ねられることもあります。

- ・このところ、夜中に子どもが泣く。昨夜は 11 時から 3 時まで泣いていた。子どもの夜泣きに困りはてた妻に起こされたら、母子で泣いていた。一昨日まで自分も育休を取っていた。今日は寝不足と心配で、会社を休んだ。今後どうやってサポートしたらよいか?
- ・体重が少なく、先月から 200g しか増えていない。身長も小さく、食も細くて夫婦で心配している。医師から安心のためとすすめられてホルモン検査を受けたが、異常はなかった。母乳は好きだが、牛乳やヨーグルトなどは受け付けない。来月から保育園に入園する。保育園からは「牛乳を飲めるようにしてください」と言われている。そろそろ断乳が必要か?
- ・子どもがよく泣く。出産した産院では「泣くたびに授乳してよい」と言われたが、インターネットで調べると『過飲症候群』と出ている。飲ませすぎではないのか?
- ・子どもとのコミュニケーションをとる時に、擬音は使ったほうがよいのか? 夫婦で考え方が違う。

1歳以上の相談が半数を超える

相談対象である子どもの月齢・年齢では、1歳以上の相談が55.4%を占めました。次いで月齢0～3ヵ月までの低月齢の相談が16.9%と開設以来最も少なくなりました。開設から2015年までの40年間はこの0～3ヵ月までが常に全体の3分の1を占めトップでしたが、2016年に1歳児以上と逆転して以降減少が続いています。特に、この2年間はコロナ禍で新生児への調乳指導や0歳児への栄養相談などの機会が非常に少なくなったことも影響していると思われます。(図9)

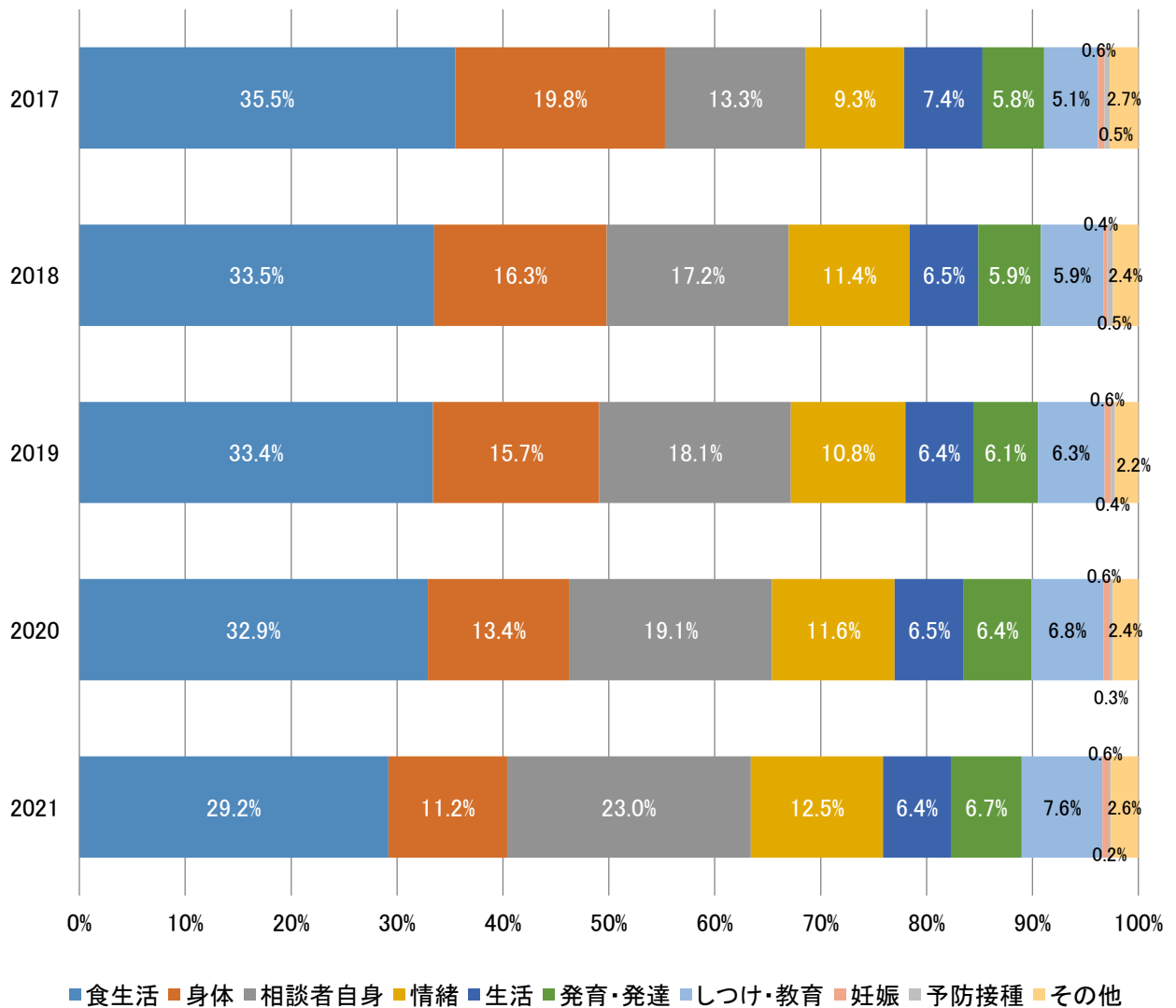
図9 子どもの月齢・年齢の割合の推移(2013～2014・2017～2021年)



相談内容は「食生活」が最も多く29.2%、次いで「相談者自身」が23.0%

相談内容で最も多いのは、授乳や離乳食に関する「食生活」で29.2%でした。次いで多いのが、相談者と子どもの関係や相談者自身のメンタルに関する「相談者自身」で23.0%を占めています。ここ数年「相談者自身」が増加する傾向は続いています。逆に低月齢の赤ちゃんに多い吐乳・溢乳や便、皮膚などの「身体」に関するご相談もインターネットで情報が得られるためか減少しています。また、医療的な内容の多い「妊娠」と「予防接種」は1%以下で、特に「予防接種」の相談は減少しています。これは自治体が予防接種スケジュールアプリの配布やお知らせメール、LINEなどを導入したことで、わかりやすくなったためではないかと推察しています。(図10)

図10 相談内容の割合の推移(2017~2021年)



■新型コロナウイルス感染症予防ワクチンのご相談例

2021 年は新型コロナウイルス感染症予防のワクチン接種にまつわるご相談も多く寄せられました。エンゼル 110 番の相談員は医師ではありませんので医学的なアドバイスはできませんが、お話を伺って不安な気持ちを共有させていただきました。

- ・医療従事者なのでワクチン接種対象になっている。子どもに母乳を与えていて、影響がどうか気になって接種を迷っている。主治医に相談したら「症例がないからわからない」と言われ、厚生労働省の相談窓口で対応してくれた男性の担当者に「私だったら 1 ヶ月母乳を休みますけどね」とさらっと言われてしまった。
- ・看護師の仕事復帰に向けてワクチンを接種したら発熱した。熱が高くて赤ちゃんを抱っこできなくて困っている。
- ・ママがワクチンを接種した。医師より「今は授乳しても問題ないが、将来的にどんな影響がでるかわからない」とあいまいに言われて不安になった。接種後 2 日間はミルクにしてその後授乳を再開したが、このまま与えてよいか不安になった。
- ・ママがワクチンを接種することになった。子どももいろいろな予防接種を受けている時期。新型コロナウイルス感染症ワクチンは少し母乳を介して子どもに免疫がいくと聞かすが、子どもの予防接種との兼ね合いをどう考えればよいか？
- ・新型コロナウイルス感染症ワクチンは接種済み。接種から 2 週間経過したのでインフルエンザワクチンの接種はできるのか？妊娠の可能性があるのでどうしたらよいか？

■新型コロナウイルス感染症にまつわる他のご相談事例

- ・幼稚園で新型コロナウイルス感染者が発生。双子とママも感染したが、もう回復した。そのせいか二人が登園を嫌がる。
- ・高齢者の多い地域で、大きな公園に行くとマスクをせずにおじいちゃんやおばあちゃんが声をかけてきて赤ちゃんに触ろうとする。感染が怖いので、公園に行けない。
- ・最近歩くようになった。新型コロナウイルス感染症の感染を心配して、外出する機会が少なく、他の子と比べて発達が遅いのではないかと不安になった。1 歳半健診も新型コロナウイルス感染症の影響で、自治体の実施が 3 ヶ月遅れている。
- ・フルタイムで働いている。保育園で新型コロナウイルス感染症の感染者が出たため、子どもが濃厚接触者として 2 週間自宅待機になった。もともといやいや期で大変だったのに、在宅ワークでママはさらに大変。
- ・コロナ禍で、通っている保育園から登園自粛要請が出て 3 日目。仕事を休んで子どもの相手をするが、しんどい。公的機関に相談しても「それなら登園させれば」と話を聞いてくれない。昼寝もしなくなり、癩癩で困っている。答えはないとわかっているが、話を聞いてもらいたい。
- ・新型コロナウイルス感染症のデルタ株は子どもに感染しやすいと聞くので、幼稚園の通園が不安。そのため幼稚園を休ませている。クラスではうちの子だけ。ママと家で過ごすことで発達に影響はあるか？

まとめ

2021年は、前年から続く新型コロナウイルス感染症の拡大により、緊急事態宣言もしくはまん延防止等重点措置が適応される期間が長く続きました。4月には例年通り入学式や入園式が執り行われましたが、その後は幼稚園や保育園が休園になったり登園が保護者の判断になったりと、通常と違う保育体制にとまどう様子が見受けられました。「通わせている園で新型コロナウイルス感染症の陽性者が出て感染してしまった」「園の先生が感染して休園になった」「子どもが濃厚接触者になり、親も自宅待機中」「パパが新型コロナウイルス感染症の陽性者になった。子どもはまだ話せないので様子の方がわからない」と新型コロナウイルス感染者が身近に感じられる相談もありました。

4月や5月に多い保育園や幼稚園への行き渋りの相談が、4回目の緊急事態宣言の明けた10月以降に多くなったのも特徴的でした。この時期は行き渋り以外にも、「朝の支度を嫌がる」「癩癩が多くなってかわり方で悩んでいる」「子どもが疲れている」といった相談が多く寄せられました。

他には児童館や子育て支援施設の利用の制限や、新型コロナウイルス感染症の感染を気にして外出を控える傾向からか、「他の子と関わる機会が少なく発達心配」「自宅にばかりいて今後の発育に影響はないか」「同じような月齢の子の様子がわからなくてこの発達で正常なのか」と今後の発達の影響を心配する声も聞かれました。

その一方で「再来週から幼稚園でお弁当が始まる。好き嫌が多く、野菜は食べない。食べるものはご飯、パン、麺類とお菓子だけ」「5歳の娘から『人はなぜ夢を見るの？怖い夢をみるのが嫌』と言われて接し方で困っている」「プレ幼稚園に通っている。2歳11ヵ月のうちの子だけトイレでできない。3歳児健診で尿検査があり不安」といった偏食や子どもへの接し方、トイレトレーニングなどの育児に関する不変的な相談もありました。

また、エンゼル110番を利用された方からは「コロナ禍で相談できる場所が減ってしまった。でも、エンゼル110番は電話越しに安全な環境で相談ができる。ありがとうございました。」「第一子の言葉の遅れでずっと相談していた。エンゼル110番は具体的にアドバイスをしてくれたのが、救いだっただ」「エンゼル110番で話を聞いてもらうと、イライラがすっきりして気持ちがリセットされて頑張れる」と、お褒めのお言葉をいただきました。

新型コロナウイルス感染症の発生から2年が経過し、私たちの生活環境は大きく変化しました。これからもエンゼル110番の相談員がお話を伺わせていただくことで、子育てされている方たちの気持ちの面でのサポートができるように努めます。

以上